

第 56 回 運転管理検討会 議事録

1. 開催日時：2025 年 1 月 24 日（金）13 時 30 分～16 時 00 分
2. 開催場所：原子力安全推進協会 会議室（Web 会議併用）
3. 出席者：（順不同、敬称略）

出席委員：坂元主査(原子力安全推進協会), 近藤副主査(東京電力 HD), 阿部(四国電力), 池本(北海道電力), 奥村(中部電力), 加藤(BWR 運転訓練センター), 上都(東芝エネルギーシステムズ), 川越(関西電力), 君和田(電源開発), 橋本(九州電力), 吉岡(北陸電力), 小倉(日本原子力発電), 宮本(中国電力) ^{※1}	(計 13 名)
代理出席：葛西(東北電力, 佐々木委員代理), 品川(中国電力, 宮本委員代理) ^{※2}	(計 2 名)
欠席委員：梅谷(三菱重工), 熊倉(原子力発電訓練センター), 橋本(日立 GE ニューカリア・エナジー)	(計 3 名)
常時参加者：打越(四国電力)	(計 1 名)
説明者：西山(四国電力), 江口(九州電力)	(計 2 名)
オブザーバ：なし	(計 0 名)
事務局：梅津(日本電気協会)	(計 1 名)
- ※1：議題 4 以降退席
- ※2：議題 3 までは説明者, 議題 4 以降宮本委員の代理として出席

4. 配付資料

資料 No.56(1)-1	運転管理検討会委員名簿（案）
資料 No.56(1)-2	運転管理検討会委員名簿（案）（日程調整）
資料 No.56(2)	第 55 回 運転管理検討会 議事録(案)
資料 No.56(3)-1	2025 年度 各分野の規格策定活動（運転・保守分科会分）
資料 No.56(3)-2	原子力規格委員会 運転・保守分科会 2025 年度活動計画（案）
資料 No.56(4)-1	2025 年度 女性運転員意見交換について
資料 No.56(4)-2	2025 年度 実機体感研修派遣について

5. 議事

事務局より、本検討会にて私的独占の禁止及び公正取引の確保に関する法律及び諸外国の競争法に抵触する行為を行わないことの周知徹底が行われた後、坂元主査の開催の挨拶があり、その後議事が進められた。

(1) 代理出席者、常時参加者、説明者、オブザーバ、委員定足数、配付資料の確認

事務局より代理出席者 2 名の紹介があり、分科会規約第 13 条（検討会）第 7 項に基づき、主査の承認を得た。代理を含めた出席委員数は 14 名であり、分科会規約第 13 条（検討会）第 15 項の決議に必要な委員総数の 2/3 以上（12 名以上）の出席が確認された。また、常時参加者 1 名及び説明者 2 名の紹介があった。

その後、事務局より、資料 No.56(1)-1 に基づき、下記委員の変更があるとの紹介があり、委員候補については、分科会規約第 13 条（検討会）第 4 項に基づき、次回運転・保守分科会で承認予定であるとの紹介があった。

- ・委員退任 阿部 委員（四国電力）
- ・委員候補 西山 氏（同左）

阿部委員及び西山氏の挨拶後、配付資料の確認があった。

(2) 前回議事録の確認

事務局より、資料 No.56(2)に基づき、前回議事録の紹介があり、正式議事録とすることについて、分科会規約第 13 条（検討会）第 15 項に基づき決議の結果、特にコメントはなく、出席委員の 5 分の 4 以上の賛成で承認された。

また、JEAC4804-2024 が 2024 年 12 月 25 日に発刊されたことが紹介された。今後、事務局にて販売状況等について適宜確認していくこととした。

(3) 2025 年度活動計画について

坂元主査より、資料 No.56(3)シリーズに基づき、2025 年度活動計画について説明があった。

2025 年度活動計画案を、本検討会における意見を反映したうえで運転・保守分科会に上程することについて、決議の結果承認された。

主なご意見・コメントは下記のとおり。

- ・電力の合否判定規定は 3 年ごとに NRA への申請が必要であり、リンクしている JEAC4804 もほぼ 3 年ごとに必要に応じて見直してきた。電力の合否判定規定の 3 年ごとの申請が不要となる話もあったと記憶しているが、状況はどうか。
→ 当初は、チーム検査で運転責任者の力量等を確認しているので、合否判定規定に変更がなければ 3 年ごとの申請は不要という議論だった。前回のチーム検査で NRA へ再度確認したところ、NRA はトーンダウンしている感触。次回の申請は実施する方向だが、運用の変更はないと思われる。
- ・シミュレータについては、モデルプラントがなくなった時点での改正を考えていたが、NTC-2 号のベースである高浜 3・4 号が新型制御盤になった場合のことを考えており、川内等を考えると残していかなければならないという話だったが、今九州の計画を聞くとむしろ川内のほうが早く新型制御盤へ更新される。そうなると、川内は NTC-4 号機を使うことになる。高浜が新型制御盤に更新されたら、NTC ないし関西電力が新型制御盤のシミュレータを作る必要がある。当時考えていた、旧版となった場合というのはほぼ可能性がな

くなる。

- ・ 56(3)-2 の JEAG4802 に係る次年度計画について、BWR も再稼働したことから運転員受け入れは BWR プラントも追記する。

- ・ 運転員の認定における理解度テスト（筆記試験）について、北海道電力以外は全社導入済みで、北海道電力も 2025 年度中の導入を目指している。現状 JEAG4802 では筆記試験有無の 2 パターンを記載しているが、全社が導入済みとなった場合には JEAG4802 を改定項目となる。

→ 現状記載で問題があるわけではないので、他改定案件に合わせて対応する。

- ・ JEAC4805 の中長期活動計画について、BTC と NTC には ANSI/ANS の状況確認を継続してお願いしたい。

- ・ 安全設計分科会が新規制定する JEAG4641 について、運転員の教育訓練計画の開発について「SAT に基づいて開発する」と JEAG4802 を上書きするような記載となっていた件についてはどうなったのか。また、運転責任者についても JEAG4802 に基づくとなっており、運転管理検討会のスタンスと違うと考える。

→ JEAG4641 は、運転員の教育訓練については JEAG4802 に委ねるよう記載を見直した。運転責任者の判定については、各社の合否判定規定に基づいて実施するため、JEAC4804 が引用されていなくても問題はないという考え方。なお、JEAC4804 はあくまでも合否判定のための規定であって、教育を規定したものではないため、JEAG4802 で問題ない。

→ 他規格へ自規格が引用される場合には、事務局としても今後注意していく。

→ JEAG4641 の状況について事務局より検討会委員へ共有すること。

- ・ JEAG4802 に JEAG4641 を引用、またはヒューマンファクタ関係を取り入れる必要はないか。NRA のガイドラインもある。

→ 次回改定時に最新知見として取り込むことも検討していく。

- ・ JEAG 改定に伴って現場の教育訓練が変わっていくというより、教育訓練の実績があつたうえで JEAG はそれを担保していく形。

- ・ 今回の意見を反映したものを、2025 年度活動計画案として運転・保守分科会に上程することについて決議を取りたい。

○ 特に異論がなかったので、今回の検討会での意見を反映した 2025 年度活動計画案を運転・保守分科会に上程することについて、分科会規約第 13 条(検討会)第 15 項に基づいて挙手にて決議の結果、出席委員の 5 分の 4 以上の賛成で承認された。

(4) その他

1) 2025 年度 女性運転委員意見交換について

坂元主査より、資料 No.56(4)-1 に基づき、女性運転委員意見交換について説明があった。

主なご意見・コメントは下記のとおり。

- ・ 島根としては、2027 年度より 2025 年度の方が受け入れやすいと考えている。

- ・伊方発電所に女性運転員は不在。他部署に女性社員はおり、声掛けはしているものの窓口が発電部門のためあまり前向きではない印象だが、継続して募集する。ただ、伊方発電所での実施は、伊方からの参加実績ができた後とする。
- ・本意見交換会は同じ悩みを持たれている方が集まって有益と思うが、アウトプットがみてこないことについて参加者はストレスが溜まっていると思う。CNO会議への報告等はしているものの、実態を変えていくのは難しい。SA要員の被曝制限撤廃の動きなども聞こえているが、法令が早々変わるとも思えない。SA要員になれないことからSA訓練にも参加できていないが、せめて訓練に参加して力量を獲得したいという方もいる。
- ・当面は、これまでどおり悩みの共有等他電力とのコミュニケーションの場を主目的として実施していきたい。参加者の固定等を考えると、インターバルについては検討の余地がある。
- ・本意見交換会についてはCNOも気にかけており、まだ結果は出でていないものの、動きがある可能性もある。
- ・各社に女性窓口をセットしてほしいという声もあるが、これも困難。
- ・原子力委員会岡田委員から、意見交換は継続したいとの話もある。本次交易会については、これまで通りメッセージをいただく程度にとどめる。

2) 2025年度 実機体感研修派遣

坂元主査より、資料No.56(4)-2に基づき、実機体験研修について説明があった。

主なご意見・コメントは下記のとおり。

- ・BWRも再稼働したことから、BWR電力は再稼働したBWRへ派遣を希望する。
- ・柏崎は派遣できる状況はない。志賀、大間、浜岡、東海第二はBWRへの派遣を希望。
- ・泊は2025年度は派遣できるが、2026年度は厳しい。これまで未派遣の人員を派遣したい。年間1チーム程度。
- ・女川及び島根は2025年度の受け入れに前向き。ただし、現場との調整が必要。

3) 電源開発の運転責任者合否判定制度について

君和田委員より、電源開発の運転責任者合否判定制度について説明があった。

- ・電源開発ではまだ運転責任者はいない
- ・燃料装荷時点では運転責任者が必要のため、判定機関としてJANSIを指定することを検討
- ・昨年JANSIと打ち合わせを実施

主なご意見・コメントは下記のとおり。

- ・更新のためには燃料装荷以降のプラントでの運転経験が必要であり、新規取得してから燃料装荷より前に更新する場合、自社プラントでのみの業務従事だと更新が厳しい。
- ・運転責任者の資格に旧規制基準/新規制基準の区別はないため、燃料装荷前は旧規制基準下で認可された保安規定に基づいて取得することも可能。

- ・ とはいえ、新規制基準に対応した保安規定と手順書を訓練用に作成した暫定版として制定し、それをもって試験を受けようと考えている。
- ・ 保安規定は旧規制基準に対応したものでも、暫定版を社内の会議体で承認したうえでそれを使えばよいという考え方。BTCでの訓練では電源開発からの参加者は新規制基準に対応したもので実施している現状もある。
- ・ 新規制基準で保安規定が認可された際には、暫定版と相違があった場合に運転責任者の資格の有効性についても考えていく必要がある。
- ・ 試験用の手順書等の定義について、JEAC4804には定めないほうがよい。
- ・ NRAへは2025年度中に頭出し。必要性についてロジックを固めていく。

4) その他

- ・ 坂元主査より、Jヴィレッジの使用について紹介があった。
- ・ 次回検討会では次期主査選任等を念頭とし、2025年度上旬を目途に日程を調整する。

以上